

松嶋夜話 卷之下 48

〔原文〕此秋閑暇

〔訓読〕此の秋閑暇

〔原文〕以上月十一月發松島過小野廣淵鄉村

〔訓読〕上月の十一月を以て松島を發し、小野の廣淵の鄉村を過ぐ

〔原文〕透笈入里

〔訓読〕笈入の里を透る

〔原文〕濟北寺主逆于路駐竹輿

〔訓読〕濟北寺の主、路に逆（おか）ひて竹輿を駐む

〔原文〕便入寺日中

〔訓読〕便ち寺に入り、日中す

〔原文〕寺主供午頓

〔訓読〕寺主、午頓を供す

〔原文〕又諸檀相鳩爲投轄矣

〔訓読〕又諸檀相ひ鳩（やす）みて、轄を投げんと為す

〔原文〕這月爲奠枕於柳津驛不稽也

〔訓読〕這の月、枕を柳津の驛に奠むるが為に、稽（とど）まらざるなり

〔原文〕次日起柳津東見横山

〔訓読〕次の日、柳津を起きて東に横山を見る

〔原文〕行行涉登米之堡障

〔訓読〕行く行く登米の堡障に渉る

〔原文〕要害泊好

〔訓読〕要害泊（うるお）さんこと好し

〔原文〕又山川風物館閣臨北上河

〔訓読〕又山川風物館閣、北上河に臨み

〔原文〕景様可愛可觀

〔訓読〕景様愛すべし觀すべし

〔原文〕寔國下眉目也

〔訓読〕寔に國下の眉目なり

〔原文〕伊達甲族世采之

〔訓読〕伊達の甲族世よ之を采す

※…甲族…高貴の家柄。門閥家。貴族。

〔原文〕過邨邨郵往指原川

〔訓読〕邨邨を過ぎて指原川に往く

※指原川…地名？

〔原文〕見彼田畝南艸翠翠

〔訓読〕彼の田畝を見れば、南艸翠翠たり

〔原文〕暮著本吉郡安養山淨勝寺

〔訓読〕暮れに本吉郡の安養山の淨勝寺に著く

〔原文〕此寺原有佐藤兄弟之二石塔

〔訓読〕此の寺原より佐藤兄弟の二石の塔有り

〔原文〕先年依當中將公之命余書寺記與住持矣

〔訓読〕先年當中將公の命に依りて、余寺記を書きて、住持に與ふ

〔原文〕今又來矣

〔訓読〕今又来る

〔原文〕院主法姪龍淵率諸檀出于郊外接入

〔訓読〕院主法姪の龍淵、諸檀を率ひて、郊外に出てて接入す

〔原文〕翌日擔閣

〔訓読〕翌日、閣を擔ふ

〔原文〕次日院主室中莊戒檀

〔訓読〕次の日、院主室中に戒檀を莊して

〔原文〕正面懸五戒師佛陀聖號一軸

〔訓読〕正面に五戒師、佛陀の聖號一軸を懸け

〔原文〕左右打釘慧心彌陀牧溪觀音二幅

〔訓読〕左右に慧心の彌陀、牧溪の觀音二幅を打釘す

〔原文〕又置南山鑑眞興正菩薩三頂相

〔訓読〕又南山の鑑眞、興正菩薩の三頂相を置く

※叡尊：鎌倉時代中期に活動した僧で、真言律宗を興した。字は思円。諡号は興正菩薩。

〔原文〕中央飾公座右廂左廂設羯磨師教授師引請師三凳子

〔訓読〕中央に公座を飾り、右廂左廂に羯磨師、教授師、引請師の三凳子を設け

※羯磨師：羯磨阿闍梨のこと。具足戒を受ける時、師として戒場に請わねばならない三師の一つ。

戒場において受戒者のために、作法等を指導する僧を羯磨師

教授師：教授阿闍梨のことをいう。正授戒における三師の一。授戒会の正授戒のときの右方教授師

引請師：授戒の時、戒弟を誘導する人のこと。特に、進退作法にくらい戒弟を指導して、戒師を請うて授戒させる役の者。授戒会の三師の一。

〔原文〕花香供養法式彌布請說戒

〔訓読〕花香供養し、法式彌く布し、戒を説くことを請う

〔原文〕余登座

〔訓読〕余座に登る

〔原文〕目菩薩大戒授戒

〔訓読〕菩薩の大戒を目て授戒す

〔原文〕度者男女三百七十九人

〔訓読〕度する者、男女三百七十九人

〔原文〕戒法畢

〔訓読〕戒法畢って

〔原文〕新殿慶贊

〔訓読〕新殿慶贊す

〔原文〕拈香曰

〔訓読〕拈香曰く

〔原文〕革故鼎新

〔訓読〕故（ふる）きを革め新しきを鼎しむ

〔原文〕安養土偈功勳力

〔訓読〕安養の土、功を勳し、力を勳す

※安養浄土…阿弥陀仏の極楽浄土のこと。

〔原文〕浄勝峯摩訶般若波羅蜜大覺圓明照劫空

〔訓読〕浄勝の峯、摩訶般若波羅蜜の大覺圓明、劫空を照らす

※浄勝峯…よくわかりません